

リスクコミュニケーション

県感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆76◆

今回は、感染症などの危機管理対応をする上で重要な役割を担う「リスクコミュニケーション」についてお話しします。

▽リスクコミュニケーションとは
リスクコミュニケーションとは、感染症、災害など、リスクを伴う場合において、そのリスクに対する適切なマネージメントを行うため、関係者間でコミュニケーションをとることです。コミュニケーションですので「対話」であり、一方的な「情報伝達」ではありません。

▽感染症のリスクコミュニケーションの重要性
感染症は、さまざまなウイルス、細菌、寄生虫などの病原体が、外部から体内に、唾液などの体液や手、モノを介して侵入し感染することで起こる病気のことです。これらの微生物の大半は目に見えないほど小さく、しかも人から人へ伝播し、時には集団発生を起すことが人々の恐怖に繋がります。それが未知の感染症であれば尚更です。過去には、ハンセン病やHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染症の感染者に対する差別や偏見、人権侵害が起こ

りました。新型コロナウイルス感染症でも感染者に対する誹謗中傷、偏見など同様の問題が起こっています。

しかし、これらは感染症に対する信頼できる情報と正しい知識が不足していることが一因でもあります。人々の

相互理解し信頼構築
情報が行動を変える

恐怖感を無闇に惹起(じゃつき)することは、差別などの過剰反応を起こすことにつながりかねません。

▽平時から信頼関係構築を
感染症のリスクに関わる人たちは状況によりさまざまですが、国や自治体医療機関、学校、そして一般市民など多岐に渡ります。非常時には、人は精神的にも余裕がなくなるので、つい意見が異なる人を批判しがちです。しかし、そのような時こそ、互いを尊重して共感し、感染爆発を抑えて病気で苦しむ人を少なくする、という目的に向

かつて協力することが求められます。

また、非常時に一から信頼関係を構築するのは困難なので、平時から関係を深めておくことが大事です。同じ事を議論していく状況を良くしたいという思いは一緒でも、関係者の立場(例えば医療機関と行政)が違えばその問題に対する考え方、問題を解決するためのアプローチの仕方が違うことはよくあります。自分の考え方を強要するのではなく、違うことを認識し相

手に共感し対話し、課題を解決するために最適な方法を模索することが大事です。

▽迅速かつ正しい情報の共有が人の行動を変える
情報を共有する時には、個人情報に十分配慮すべきですが、情報不足は関係者間の不安、不信に繋がるため、それを防ぐために正しい情報を速やかに関係者間で共有することが重要です。

そして、それは、方針決定者が適切な判断をする上で不可欠です。とりわけ非常時においては、誰にとっても手軽にアクセスでき、簡潔でわかりやすい情報提供が大事です。迅速で透明性のある正しい情報を共有することで、一人一人が当事者として問題意識を持ち、理解して行動を変容させることが、被害を抑えるための重要な鍵になります。

▽情報源の確認を
インターネットの発達で、誰でも情報発信・収集が容易になりましたが、その一部にはデマも含まれています。また、ニュースは短い時間の中で要点を伝える必要があるため、当事者が事実に基づいた正しい情報発信をしていても、メディアによる情報の切り取られ方によっては誤解を招きかねないことがあり、情報源を調べてみることも大事です。

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をお願いします

3つの「密」を避けましょう!

- ①換気の悪い密閉空間
- ②多数が集まる密集場所
- ③近接で会話や発声をする密接場面

3つの条件がそろった場所がクラスター(集団)発生のリスクが高い!

新型コロナウイルス(以下)への対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。

厚生労働省 東京都健康・安全・防災委員会

新型コロナウイルス感染症の集団発生のリスクについて伝える厚労省のポスター。表現がシンプルでメッセージがわかりやすいことはリスクコミュニケーションにおいて重要である。